



一般社団法人 都城国際交流協会 会報
MIA NEWS
 ミア ニュース

～協会からのお知らせ・インフォメーション～

◇第14回ワールドフェスタinみやこのじょう2026を開催しました

2026年2月8日に都城市総合文化ホールで、第14回ワールドフェスタinみやこのじょう2026を開催しました。

当日は1,200人を超える来場者があり、マルチギャラリーでは11か国の紹介ブース(アメリカ、イギリス、オーストラリア、キルギス、スリランカ、中国、デンマーク、南アフリカ、モンゴル、ベトナム、フィリピン)、プロ野球独立リーグ「宮崎サンシャインズ」の外国人選手との交流、泉ヶ丘高校の生徒による日本文化紹介が行われました。各国のブースでは、伝統的な遊びの体験や民族衣装の試着、お茶・お菓子の試飲試食、工作などを通じて交流しました。



ステージでは、中国やフィリピンの歌とダンス、そして3組のバンドが演奏を披露してくださいました。

お忙しい中、ワールドフェスタにご来場いただきました皆様、イベントにご協力をいただきました出演者の皆様と多くのスタッフの皆様方に深く感謝を申し上げます。

ステージでは、外国の歌やダンス、吹奏楽演奏をはじめとする三つのバンド演奏を披露していただきました。

お忙しい中、ワールドフェスタにご来場いただきました皆様、イベントにご協力をいただきました出演者の皆様とスタッフの皆様方に深く感謝を申し上げます。



◇使用済み切手を集めてアジア・アフリカに健康を届けよう!

アジア・アフリカの人々の健康のための使用済み切手収集にご協力いただきありがとうございます。

皆様から頂いた使用済み切手は、整理、換金され、途上国の保険医療活動を支える貴重な資金となっています。これからも引き続きご協力をよろしくお願い致します。



～列車・トラム・トンネル、そして驚きの低運賃!～

オーストラリア出身 ジョージ・グリーン

G' Day!まだ出会っていない方々もいると思いますので、はじめまして。私の名前はジョージ・グリーンです。2018年から2023年まで、オーストラリア出身の英語圏CIRとして都城で勤務していました。その後、数年間オーストラリアに戻っていましたが、このたび再び都城に帰り、現在は日本情報クリエイティブでソフトウェア開発者として働いています。最近、私自身がオーストラリアの東海岸をすべて旅してきたのですが、その中で驚いたことを、是非皆さんにお伝えしたいと思いました。それは、オーストラリアの公共交通機関がここ数年でかなり改善されているということです!

オーストラリア東海岸の主要都市では、公共交通機関の“静かな革命”が進んでいます。メルボルンでは地下深くに新たな鉄道トンネルが開通し、ゴールドコーストでは思い切った運賃改革が実施されました。鉄道網の改良、メトロ路線の拡張、そして大胆な料金見直しにより、オーストラリア旅行はこれまで以上に便利で身近なものになっています。オーストラリアの交通機関についてご紹介します。

メルボルンとCity Loop 2.0

メルボルンでは、1980年代に開業した鉄道環状線以来、最大規模となる鉄道ネットワークの刷新が実現しました。長年計画されてきたメトロ・トンネルが2025年後半に旅客営業を開始し、市内交通の流れを大きく変えています。

この新しい地下鉄回廊は、北西部と南東部の郊外(サンベリー線、クランボーン線、パケナム線)をシティ・ループから切り離し、専用トンネルと新設駅を通過して市内を縦断します。これにより、既存のシティ・ループには余裕が生まれ、路線全体で運行本数が増加し、新しいルートの運行が可能となりました。2026年2月からは、主要路線で、週あたり1000本以上の増便が予定されており、混雑緩和と定時性向上が期待されています。新トンネルは市内各エリアを効率よく結び、混雑の集中を避けながら、医療・研究地区といったパークビル等の成長エリアへのアクセスも大きく改善しました。

運賃の支払いには引き続きMyki(マイキー)カードが使われていますが、読み取り機器の更新が進められており、2026年以降はクレジットカードやスマートフォンによる「タッチ決済」にも対応予定です。海外からの旅行者にとっても、より使いやすい環境が整いつつあります。



シドニーのメトロ拡張と進化するチケッティング

シドニーでは、オーストラリア最大の自動運転鉄道プロジェクトであるシドニー・メトロが、路線延伸と運行頻度の向上を続けています。これにより、従来の郊外鉄道への負荷が軽減され、市内を横断する移動がよりスムーズになりました。

運賃支払いの中心となっているのはOpal(オパール)カードで、鉄道、バス、フェリー、ライトレール(トラムと電車の間になるものですが、トラムと似ているところが多い)すべてに対応しています。すでに多くの場面でクレジットカードやデビットカードによるタッチ決済も可能となっています。さらに現在、「Opal Next Gen」と呼ばれる大規模なシステムの刷新が進行中です。電子チケットとの統合やデジタル機能の強化が予定されており、導入は2027年頃と見込まれています。完成すれば、シドニーの公共交通はさらに直感的で使いやすいものになるでしょう。

ゴールドコーストと南東クイーンズランドの信じられないほど安い運賃



ライトレール

ゴールドコーストが誇る最大の話題は、オーストラリア東海岸で最も安い公共交通運賃です。2024年8月、クイーンズランド州はTranslinkが運営するすべての公共交通機関(鉄道、バス、トラム、フェリー)を対象に、一律50セント運賃を導入しました。

観光地としても知られるゴールドコーストは、もともと公共交通機関の利用者が多い地域でしたが、この運賃改革によって利用者数はさらに増加しています。特にライトレールとフェリーでは大幅な伸びが見られ、週末の外出や旅行でも公共交通を選ぶ人が増えています。

この制度は当初、期間限定の試験導入でしたが、その効果が評価され、後に恒久化されました。現在では「go card」(ゴーカード)を使って、誰でも気軽に低コストで移動できる、国内でも屈指の“利用者第一”交通環境が実現しています。

東海岸を旅するなら、今がベストタイミング

メルボルンの地下トンネルから、ゴールドコーストの財布にやさしい移動まで、オーストラリア東海岸の公共交通は、これまで以上に効率的で利用しやすく進化しています。



メルボルンセントラル駅プラットフォーム

今後も、地方都市を結ぶ鉄道の改良、自転車用ロッカーの設置、マイクロモビリティ(都市部での短距離移動に特化した小型・軽量の乗り物の総称で、主に電動キックボードや電動自転車などが含まれます)の導入、バス専用レーンの拡充などが予定されており、選択肢はさらに広がっていくでしょう。便利で、分かりやすく、そして何より手頃。東海岸を巡る旅を計画するなら、これほど良いタイミングはありません!



シドニー メトロ ロスコ



「日本で過ごした日々」

～都城市中国国際交流員 謝均妮さんの母 劉靈(リュウリン)さんより～

日本は、まるでアジア大陸から太平洋に散りばめられた真珠のように、美しい国である。海を隔てて向かい合う中国に暮らす私が、都城で働く娘を訪ねるため、期待と少しの不安を胸に、九州の地を踏んだ。ここで三か月暮らし、さまざまな思いを抱いたので、以下にまとめてみた。もし不適切などころがあれば、ご容赦いただきたい。

日本は、自然の息吹に満ちた国である。鹿児島空港から都城市へ向かう道中、目に映るのは一面の緑。まるで原始林の中を走っているかのような感覚。映画『アバター』の世界を思わせ、高くそびえる大木と澄んだ鳥のさえずり、澄み切った空気に心が洗われた。大地はまるで画家のように、緑を散りばめ、生命力と美しさを描き出している。都城での生活、また旅行で出かけた先でも、植生の豊かさを深く感じた。裸の土を見ることがほとんどなく、どこでも花や木々で覆われている。自然は、街角にも、山川にも、いたるところに満ちていた。



アジサイ公園の展望台

日本は、とても清潔で整った国でもある。幼い孫を連れて、毎日街中から田んぼや川辺まで歩き回った。大雨の後でも澄んだ川の水、みずみずしくて鮮やかな草木、壁で見かける小さなカタツムリ。川を泳ぐ魚、揺れる水草、名も知らぬ鳥、花の間を舞う蝶——それらは一枚一枚の美しい絵のようだった。「なぜここまで清潔なのだろう」と、私はただ驚くばかりだった。植生の豊かさに加え、ゴミ分別や下水処理システムの整備も、こうした美しさを支えているのだろう。

日本は、高齢化が進む国である。都城では、細身で

背筋の伸びた元気な高齢者の姿をよく見かけた。日本に到着して最初に迎えてくださったのは、80代の村井ご夫婦だった。お二人とも親切で、暖かく迎えていただき、本当にありがたかった。彼らから、日本人の温かさと優しさを強く感じた。ネットでは日本人は冷たいというコメントもあるが、都城での私はまったく逆の印象だった。街角でも、畑道でも、出会った人は皆笑顔で親切で、まるで家族の中にいるような安心感があった。また、イオンで働く白髪の女性を見たときは驚いた。中国ではすでに定年退職した私が、思わず若返ったような気分になったほどだ。



イオンで買い物

中国人として日本で暮らして特に不便は感じなかった。食事も口に合い、むしろ気に入った。日本は繁栄し発展しているが、それは環境の持続的な改善の上に成り立っている。美しく清潔な日本の環境は、生まれつきのものではない。工業化の過程で日本もさまざまな環境問題に直面し、それを乗り越えて現在の姿がある。



孫と一緒に青島鬼の洗濯板にて

中国も今、発展の途上にあり、環境は着実に改善され続けている。夕食後、孫を連れて玄天湖(重慶にある景勝地)に散歩すると、まるで絵のような風景が広がっている。清潔で美しい景色は、いつの間にか日常の一部となりつつある。中国は今、より良い未来へと一歩一歩進んでいる。その先にある未来が、中国だけで



重慶玄天湖

なく、世界の人々にとっても、穏やかで希望に満ちたものであってほしいと願っている。

編集部より

外国人の方が「日本っていいな」と感じるきっかけは、何気ない日本語だったりするようです。外国人が「好き」「使ってみよう」と思う、日本のことばランキングを紹介します。

第3位:「もったいない」

一言で「大切に作る気持ち」を表せる、不思議で便利な言葉。食べ残しを前に「モッタイナイ…」とつぶやく外国人も増えていきます。

第2位:「だいじょうぶ」

意味が広すぎて最初は戸惑うものの、慣れると万能。「OK」「問題なし」「気にしない」の全部入りで、使い勝手は最強です。

第1位:「おつかれさま」

直訳できないけど、なぜか伝わる魔法の言葉。仕事終わりだけでなく、日常のあらゆる場面で使えることに感動する人も多いようです。言葉には、その国の価値観や人との距離感が表れます。外国人が「いいな」と感じる日本語は、私たちが当たり前に使っている日常の一コマ。

私たち日本人も大事にしたい言葉ですね…。

[富吉]

みなさんこんにちは(*' ω' *)

2月8日(日)ワールドフェスタを開催しました。昨年も多くのお客様が来場くださいましたが、今年ももっと多くの方がお越しくださいました。

そして私の娘も、念願のボランティアに参加。中国ブースのお手伝いをさせていただき、切り絵を担当したようです。ほかに、泉ヶ丘高校の生徒さんがたくさんボランティアに来てくださって、さらに賑やかになりました。

どのブースも工夫が凝らされていて、本当に楽しい1日でした。いつか国際化推進室を卒業することがあっても、ずっと親子で参加出来たらいいなあと思っています。

[中瀬]

九九消寒図を楽しんでいる方ならお気づきかと思いますが、2月に入り、「九九」もすでに半分を過ぎましたね。体感的にも、少しずつ寒さが和らぎ、春の気配がぼんやりと感じられるようになってきました。

そんな中、1月末に北海道へ行ってきました。大雪による交通規制が心配だったため、札幌周辺を中心とした短い旅となりましたが、運よく洞爺湖と支笏湖を見ることができました。一方で、羊蹄山は姿を現してくれず、少し心残りです。定山渓では日帰り温泉にも立ち寄り、あまりの気持ちよさに、ホテルへ戻ると夜6時にはそのまま眠ってしまいました。

足元に気をつけながらの旅ではありましたが、雪国ならではの魅力を存分に味わい、のんびりとした時間を過ごすことができました。

[謝(しゃ)]

ブラック・ボックス・ダイアリーズ

宮崎キネマ館では、映画好きな仲間同士とともに、自分で名付けた「何かを肝に銘じてほしい映画」、いわゆるアートの作品を観られるとよく耳にしていたということで、ついに初めて足を運ぶことにしました

今回観た作品は、元々本として日本全国はもとより海外にまで広がるほど大きな話題となった、日本の司法制度と社会制度の根深い諸問題を浮き彫りにする一人称視点の映画です。鑑賞直後には、わざわざ来館して下さった監督の伊藤詩織氏による質疑応答が行われ、そののち、握手会のような場で嬉しくもサインをいただきました。「イエーイ!(^^)!

ご来客の皆様のお尋ねした質問の中には心に響き、強く残るものが多々ありましたが、特に私的に共感できたのは、「日本語では丁寧になり過ぎる嫌いがあって、うまく発揮できない私情を、本当に辛いときこそ英語に頼って発揮できた」と仰っていた点です。

上手く伝えられない気分になった要因が、文化の違いなのか、言語の違いなのか、それともその両方なのかは、はっきり断言できませんが、私も時々気分が落ち込んだ際には、同じような手段を借りたことがあります。思考言語を変更することで、世界観が大きく変化するため、良い気分転換になります。

伊藤詩織さん、未来の人類のために、あなたのストーリーを語り継いでくださり、誠にありがとうございます。また、暗闇の中で自ら光を見つけ、会話相手をしっかりと見つめてくれるその光を、私たちに示してくださったことにも感謝しています。次の作品を楽しみにしております。

[セス]

2月8日(日)開催のワールドフェスタ2026へは多くの方にご来場いただきました。ブース展示やステージ発表等、多くのボランティアの皆様の協力によって今回も開催することができました。ご来場いただきました皆様、開催にご協力頂きました皆様ありがとうございます。また、都城市総合文化ホールのスタッフの皆様にも感謝申し上げます。

[藤元]

昨日の夕方、小雨が降っていました。もう少し降っていてもいいのに、と雨を願った自分に驚きました。モンゴルからのお客様が雨の日の来日でも、とても喜んでくださる気持ちが少し分かった気がしました。

[迫田]

今月の記事を書ってくれた謝さんのお母さんの記事を読み始めたら、国語の先生かなあと思いました。一つ一つ優しい言葉がとても印象的で、後半になると、学校でいろいろな科目を教えている方だなあと思いました。記事を読み終わったときに、謝さんに「お母様は、学校の先生ですね」と言ったら、「お母さんが社会と歴史、地理の先生」と教えてくれました。挨拶するぐらいで二回しか会ってないですが、素敵な記事を書ってくれた謝さんのママ、謝謝!

[ソヨ]